

事業所名		子ども発達支援室さくらいろ				支援プログラム		作成日		2024 年		10 月		1 日	
法人（事業所）理念		全ての子どもたちが自律できる社会づくりをめざす													
支援方針		専門職（言語聴覚士、作業療法士）を中心として、子どもたちの成長を最大限に促していく。また、子どもの得意不得意を把握し、どのように関わることが良いかを保護者へ共有し、より心身ともに安定した生活を送ることができるよう、サポートしていく。													
営業時間			8 時	30 分	から	17 時	30 分	まで	送迎実施の有無		あり		なし	（事業所で必要と判断した場合のみ）	
		支 援 内 容													
本人支援	健康・生活	日常生活のリズムや睡眠、食事について聴取し、家族全体が安心して生活できる工夫を検討し、提案する 子どもの発達に合わせた生活技能の獲得を促していく													
	運動・感覚	身体機能・感覚の凸凹を評価し、子どもが楽しく体を動かし成功体験が増えるようにアプローチを検討していく 子どもの動きの意味を理解し、保護者と共有し、身体の基礎作りを行う 粗大運動、微細運動、協調動作など子どもに合わせたアプローチを行っていく													
	認知・行動	行動のコントロールや視覚認知面の評価を行い、躰きの要因を把握する。 取り組み環境の調節を行い、情緒の安定や見る力、目と手の協調動作の獲得を促していく 活動の提供においては、スモールステップで促すことで自信を持って学習できるように促していく													
	言語 コミュニケーション	言葉の発達段階、コミュニケーションの発達段階、発音について専門的に評価し、個々に合ったアプローチを行う 構音の獲得、言語理解・表出、口腔機能の向上を図る 家庭の中でも取り組める関わり方を提案していく													
	人間関係 社会性	身体的、言語的な関わりの工夫と合わせ、非言語（表情・ジェスチャー・視線・イントネーション等）のコミュニケーション力を高め、愛着関係や信頼関係の構築を促していく 指示されて言動するだけでなく、自ら言動を考えてやりとりができるよう促していく ルールを学習するだけでは変化のある日常で混乱しやすくなるため、柔軟に妥協しながら考えることができるよう促していく													
家族支援		療育の際、子どもの特徴（得意・不得意）について説明し、発達を促すために家庭で取り組める事を検討する。また、家族全体が安定して生活できるよう、無理のない範囲で関わりの工夫ができるように相談を受けながら進めていく							移行支援		地域での自律を目標に、個々の能力を発揮し、安定した土台作りを行う 家族が希望する場合は、情報提供書を作成し学校生活を安心して送ることができるようサポートを行う				
地域支援・地域連携		関係機関との連携を図り、必要なアプローチや支援の在り方を共有していく 地域での生活を基準に、日々の生活の中でどこに困り感があるのかを把握し、共有することで、より成長を促していく							職員の質の向上		職員向けの研修を行う				
主な行事等		さくらいろ版ベアレントトレーニング、発達についての勉強会、父母の会、夏祭り、ハロウィン、クリスマス等年度によって調整して実施													